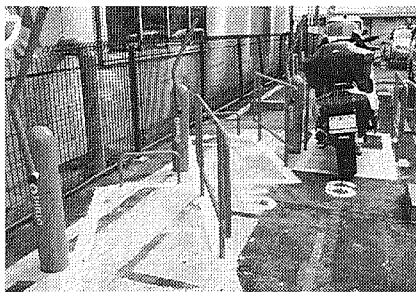


「四輪1台分に二輪3台」

新駐車方式を開発

ロープ
シグ

駐車場有効活用コンサル
ディング業の「アークス」は、四輪車1台分のスペース（大阪市、中井哲矢社）に二輪車3台を収容できる「エム・シー・エキ」と「パールモ」の3社（シなど一層の収益率向上が見エロークループ）は協働し、このほど新たに開発した駐車方式による時間貸しや駐車を大阪市内にオープンさせた。



輪をる 同グループ
四台き は、この新方
て3で 式により、四
し車 輪車駐車スベ
用二輪 ースからの二
活二も 輪車への転用
に二高 余剰スペース
有効に の有効活用を
スペース 狙いに、ます
省1台 四輪車対応の
収容可能 駐車場に対し

「シエローバイクパーク南本町」を1月、大阪市内にオープンし、ここを足がかりに東京、大阪などの都市部を中心に積極的な営業を展開、今期1200台の導入を見込んでいます。

また、新方式の特色である駐車スペースでのレイアウトの工夫のほかに、二輪車の転倒を防ぐための安全性能や、防犯・セキュリティ面も深く考慮。バイクのストッパー



ストッパーとなる昇降バー
ーとなる昇降バーや、3台のパーテーション役となるバリカー（車止め）も新開発した。これら設備も新方式の大きな特徴という。

商品化にあたり、二輪車用駐車システムの開発・販売やバイク用車庫も手掛けているエム・シー・エフ（東京都渋谷区、松村隆司社長）が設計開発を担当し、二輪車駐車場関連の企画販売を展開するパールモ（大阪市、増木大樹社長）も立案と開発に加わり、プランニングから数カ月で完成させた。

今回の新方式立案のポイントについては、シエローグループは「特に都市部で不足している二輪車駐車場の早期な確保はもちろんだが、二輪車駐車場の供給増とライダーのマネアップにより、駐車場運営会社が安定的な収益を二輪車専用スペースから得られるのが必然となる。利用するライダーと、スペースやサービスを提供する側がともに満足する状況が作れば、二輪車駐車施設が一層拡大す

省スペースで収益増期待
二輪転用に拍車かけ
インフラ促進目指す

一部の駐車場では車の出し入れに時間や手間がかかり、収益性の上がらない場所が多い）が存在す

68886・8444
http://www.arks.jp.com/